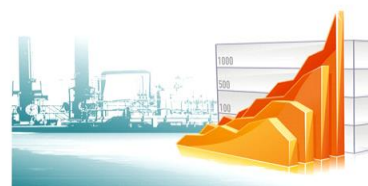


ぎふ経済レポート



令和3年7月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは 7月26日～28日を中心に実施し、8月11日時点で作成。

景気動向

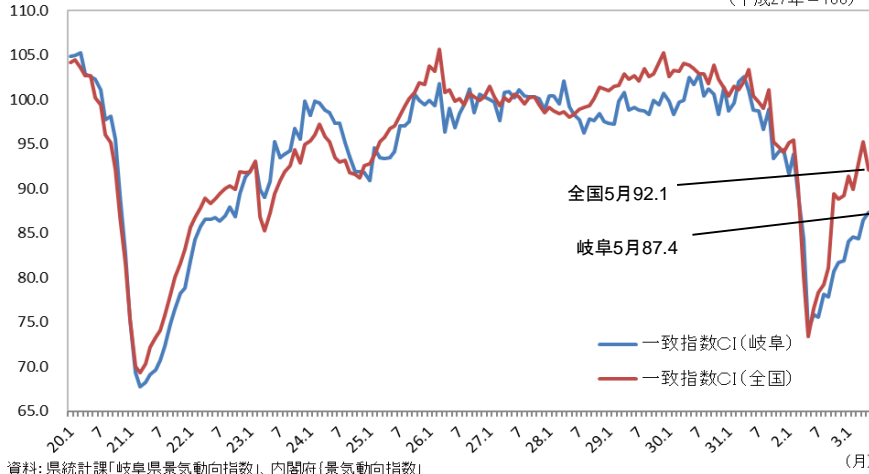
○5月の景気動向指数(一致指数)は、87.4で前月比0.8ポイント上昇した。

○6月の県内中小企業の景況感は、▲28で前月比13ポイント上昇した。

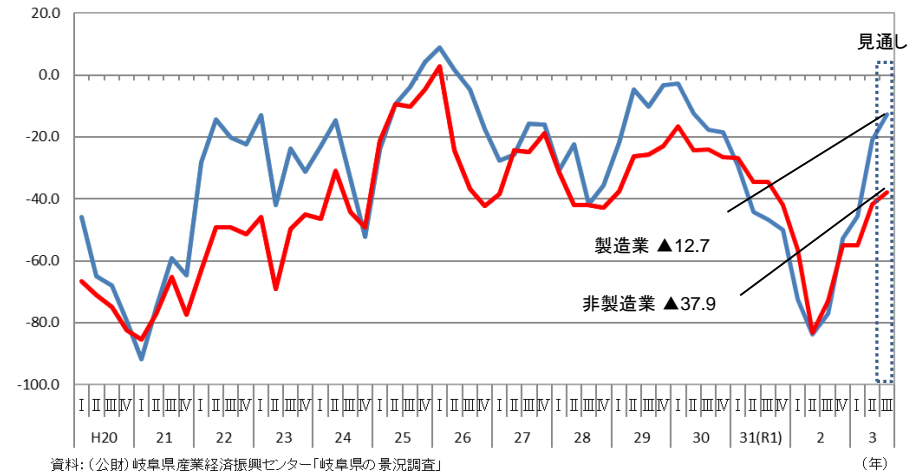
○7-9月期の景況DI見通しは、製造業で8.4ポイント、非製造業で3.7ポイント上昇した。

○同売上高DI見通しは、製造業で▲3.7ポイント、非製造業で▲9.4ポイント低下した。

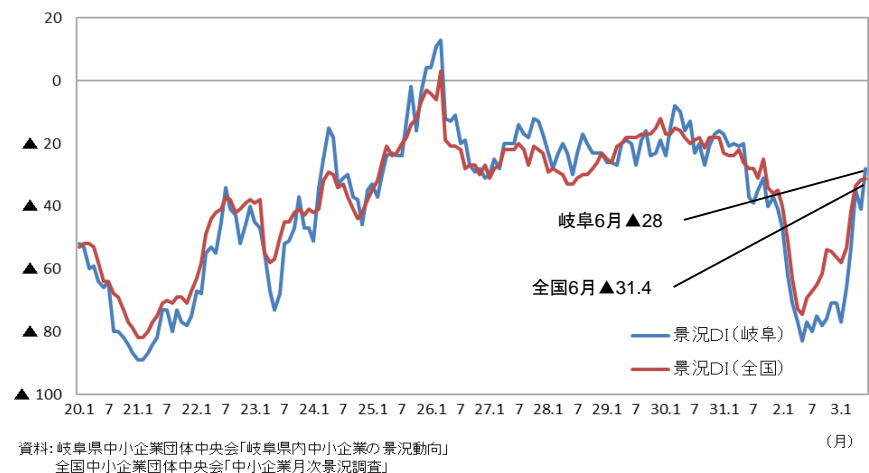
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移 (平成27年=100)



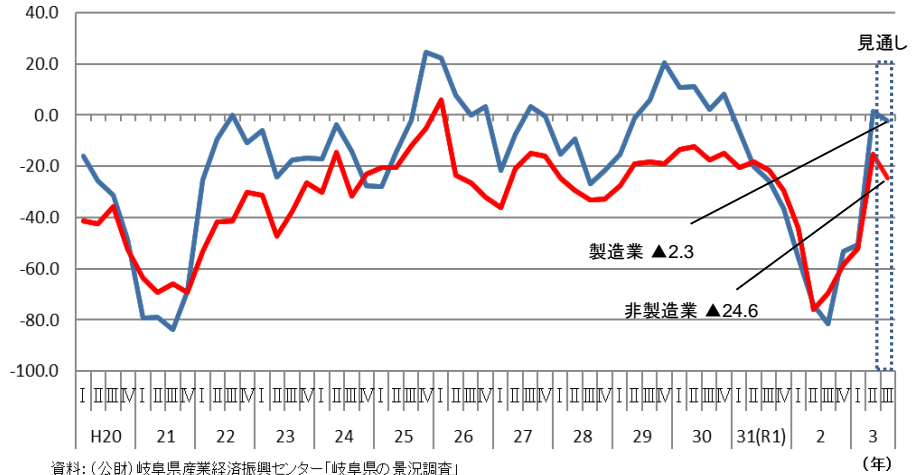
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



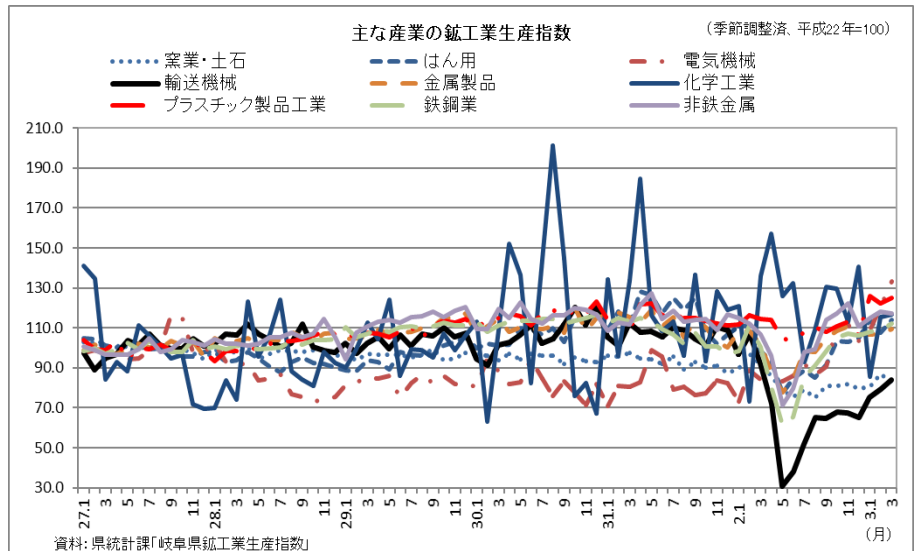
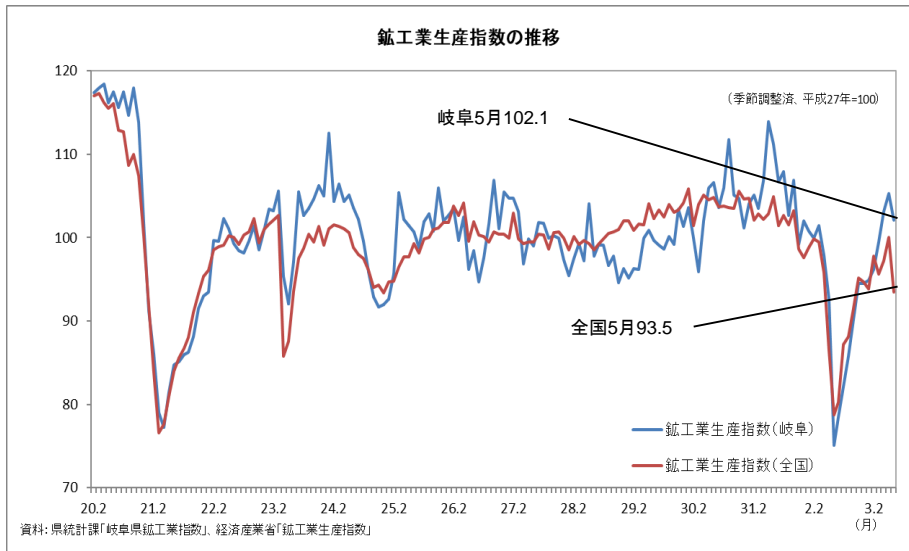
県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



製造業

- 5月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、102.1で前月比▲3.0%と低下。
- 主な産業の前月比では、化学工業とプラスチック製品工業のみ上昇し、多くの産業で低下した。

- 5月の主な産業の指数は、化学工業で前月比40.0%、プラスチック製品工業で同0.7%と上昇したものの、輸送機械で同▲15.4%、鉄鋼業で同▲12.2%、電気機械で同▲10.8%、金属製品で同▲9.0%、はん用で同▲7.6%、非鉄金属で同▲5.4%と低下した。



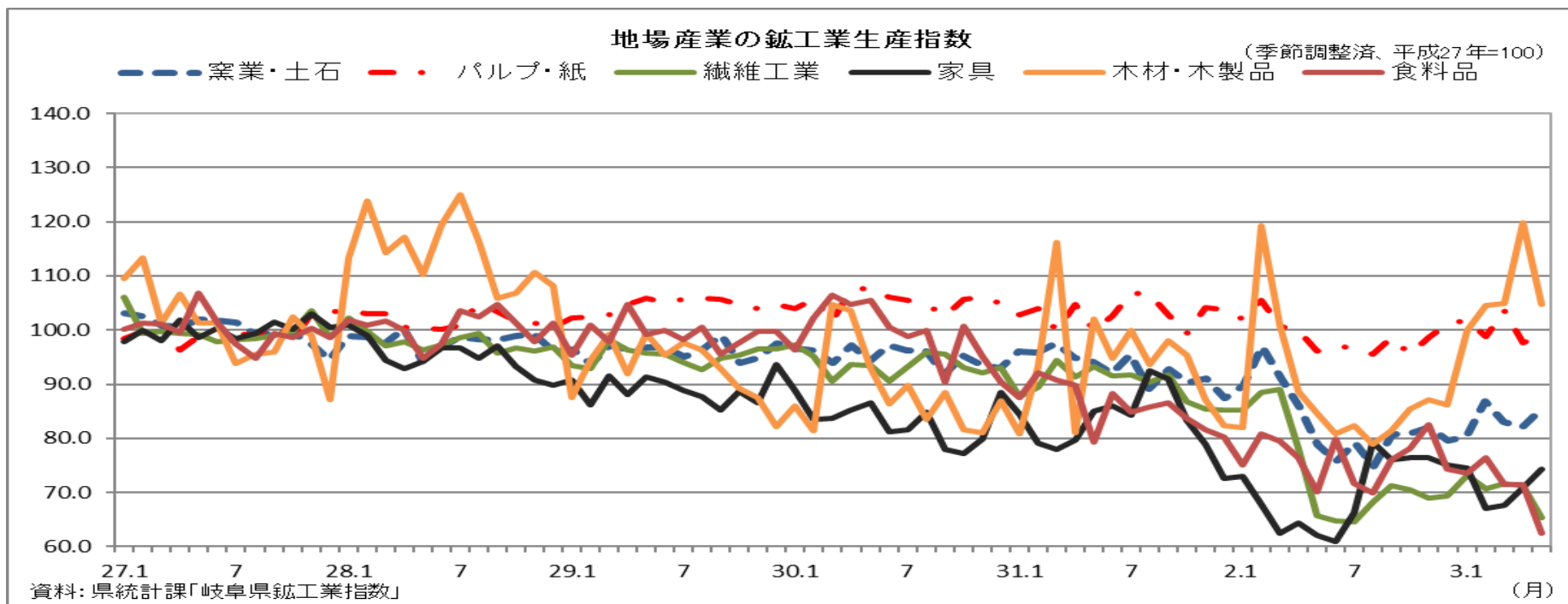
現場の動き

(※新型コロナウイルスや半導体関連、原材料価格の影響はP6にも掲載)

- ◆ 中国及び北米向け輸出は好調を維持しており、売上はコロナ前の対前々年度比で10~15%の増加を見込んでいる。以前であれば生産の繁忙期は国内需要に沿った3月と7月だったが、近年は海外輸出の割合が増えたことで年間を通して繁忙期が平準化されつつある。(輸送用機械)
- ◆ 工場全体の稼働率は8割程度であるが、工作機械部門が上向きつつある。(生産用機械器具)
- ◆ 8月から生産が増加に転じる見込み。(生産用機械器具)
- ◆ 海運に関してコンテナ不足や遅延等の影響が出ており、今後業績に影響が出る可能性がある。(輸送用機械)
- ◆ 建設機械関連は中国国内の建設機械需要の落ち込みが顕著になり、輸出が急減し始めた。(生産用機械器具)
- ◆ 中国向けの建設機械の低迷をアメリカ・ヨーロッパ向けの輸出でカバーしている。(生産用機械器具)

製造業-2

○5月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、家具で前月比4.9%、窯業・土石で同3.9%、パルプ・紙で同1.5%と上昇したものの、食料品と木材・木製品で同▲12.6%、繊維工業で同▲8.3%と低下した。



現場の動き

(※新型コロナウイルスや半導体関連、原材料価格の影響はP6にも掲載)

- ◆ 長良川沿いのホテルの稼働率は少しずつ回復傾向にあると聞けが、周りの方へお土産品を渡すことに抵抗を感じられる方も多いようであり、お土産品の売上は伸びていない。(食品)
- ◆ お中元ギフトの売上が落ちている。(食品)
- ◆ 新型コロナウイルスの感染拡大を受けてハウスメーカーの催事が中止となっており、新築住宅の購入者用に販売する家具の売上が減少している。(木工)
- ◆ なかなか新しい手を打てない。自社サイトを設けてネット販売を始めたが、検索で上位表示されるのは大手サイトであるため、サイト運営の難しさを感じている。(繊維)
- ◆ 消費が低迷しており、全国のバイヤーも足を止めている状況にある。(繊維)

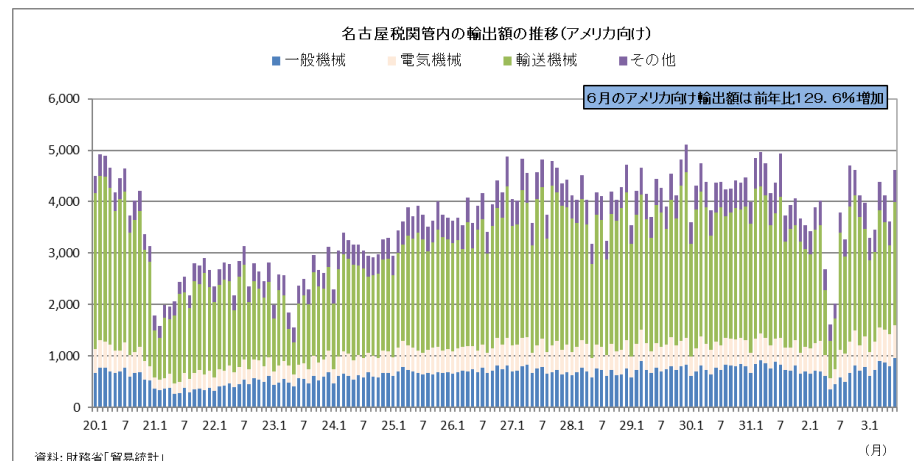
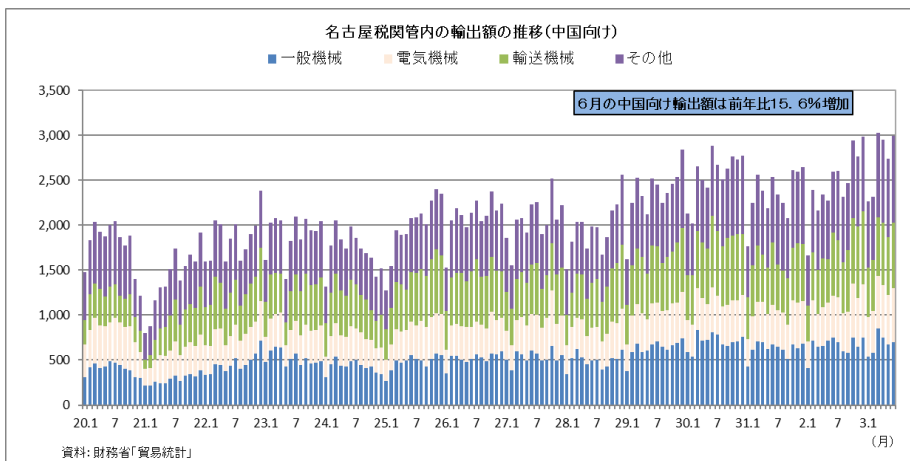
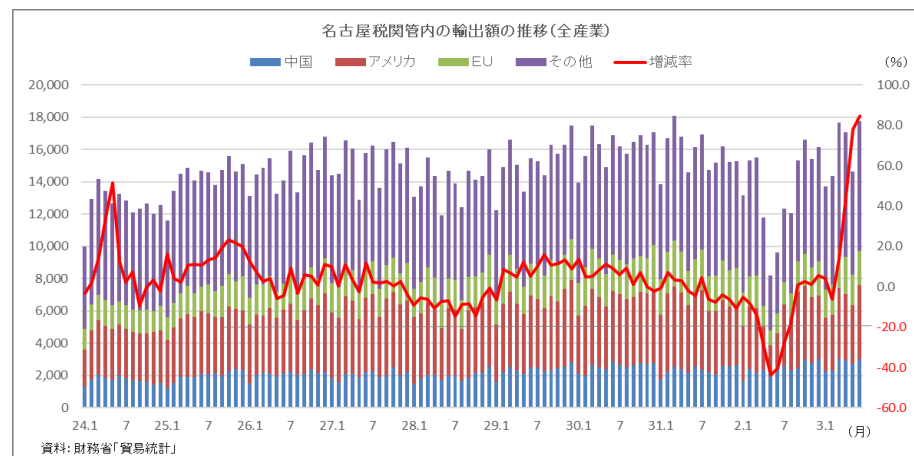
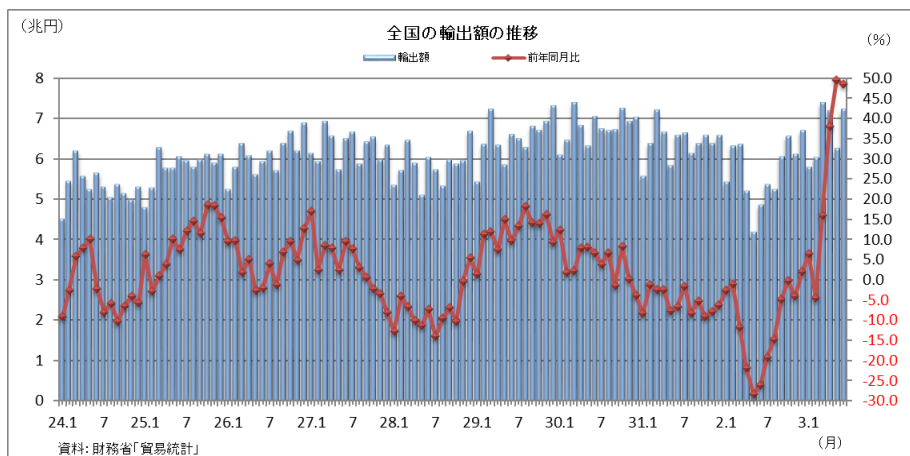
輸 出(名古屋税関管内)

○6月の輸出額(全国)は、7兆2,220億円で前年同月比48.5%増加した。

○6月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆7,761億円で前年同月比84.6%と増加し、4ヶ月連続で前年同月を上回った。

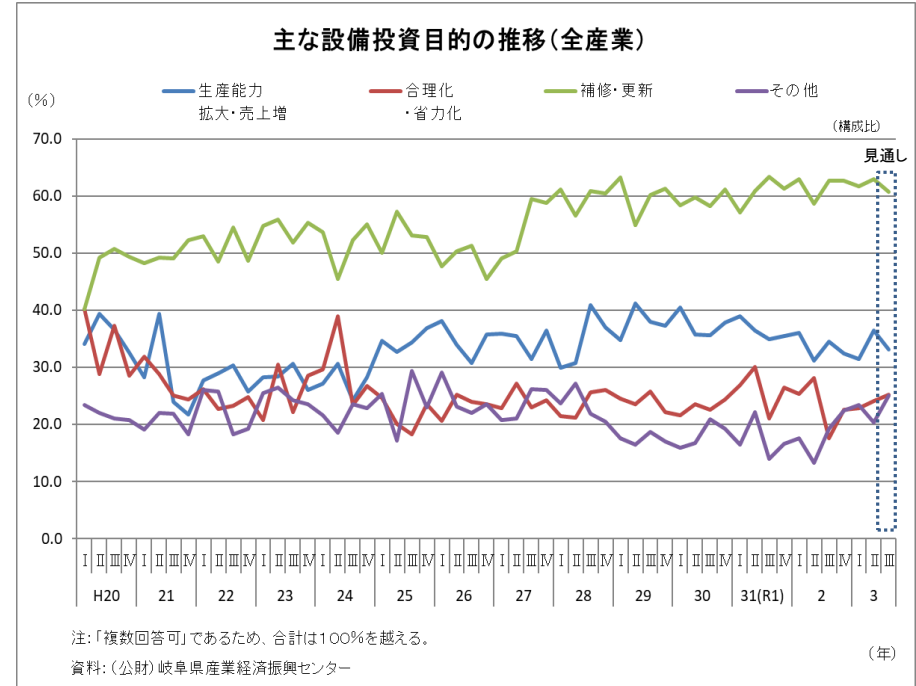
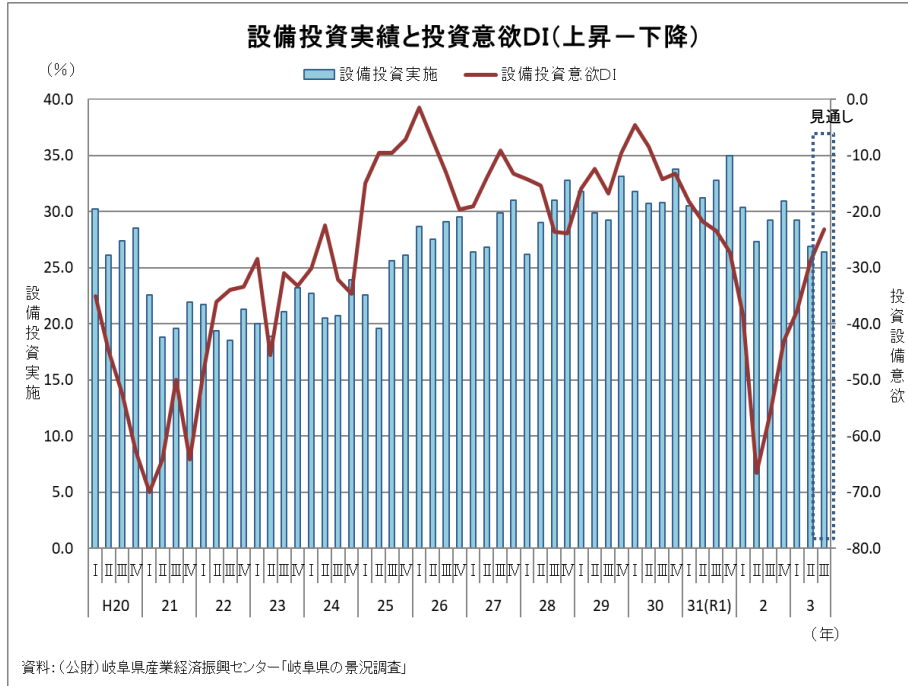
○中国向けは、全体で前年同月比15.6%増加した。その内、電気機械で同29.0%、輸送機械で同3.9%増加し、一般機械で同▲7.1%減少した。

アメリカ向けは、全体で前年同月比129.6%増加した。その内、輸送機械で同143.0%、電気機械で同121.3%、一般機械で同113.0%増加した。



設備投資

〇7-9月期の設備投資実施DI見通しは前期比▲0.5ポイント低下、設備投資意欲DI見通しは同5.8ポイント上昇。設備投資実施DI見通しの目的別では、「合理化・省力化」で同1.1ポイント上昇、「補修・更新」で同▲2.2ポイント、「生産能力拡大・売上増」で同▲3.4ポイント低下した。



現場の動き (※新型コロナウイルスや半導体関連、原材料価格の影響はP6にも掲載)

- ◆ 工場屋根に太陽光パネルを設置し、発電を開始した。(輸送用機械)
- ◆ 今期末に航空部品用の製造ラインを新設する予定。(輸送用機械)
- ◆ 新たに導入した設計システムの稼働状況が良好であるため、追加の投資を検討している。(生産用機械器具)
- ◆ 昨年と同様、補助金を活用して設備投資を行いたい。(紙)
- ◆ 紙媒体での広告を電子化するため、小型のサイネージを複数台設置する予定。(商業施設)
- ◆ 取引先では、ウッドショックによって資材の入荷の見込みが立たないため、設備投資に影響が出ている。(金融機関)

製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

- ◆ カーボンニュートラルなど環境に優しい事業は、業績の回復が早い。(輸送用機械)
- ◆ 出来る限り控えていた海外出張を再開した。(生産用機械器具)
- ◆ 巣ごもり需要の影響で業績は好調。(刃物)
- ◆ 自動車製品製造は、受注が増加しつつあるが、航空機部品製造は売上が4割減少している。(輸送用機械)
- ◆ 新型コロナウイルスの感染が拡大している東南アジアの工場稼働率が芳しくない。(電気機械器具)

半導体不足の影響について

- ◆ 顧客は半導体不足により全体の生産を落としているため、半導体を扱わない当社もその影響を受けて売上は前月比で減少したものの、工場の稼働率は維持している。(電気機械)
- ◆ 半導体不足により大手自動車メーカーが工場の休止を発表しており、当社も受注が減少しているが、半導体工場の復旧に向けての動きは着実に進んでいることを勘案すれば、9月までには十分巻き返せると判断している。(輸送用機械)
- ◆ 当社が製造に関わる自動車の車種は半導体不足による減産の対象ではないものの、今後の影響が懸念される。(輸送用機械)
- ◆ 大手自動車メーカーが工場を休止したため、当社も一部部品の製造を停止した。今後もさらに影響が出る見込み。(輸送用機械)
- ◆ 半導体不足の影響が自動車以外の分野にも波及しており、年末まで不足の状態が続く見通し。(生産用機械器具)

原材料価格について

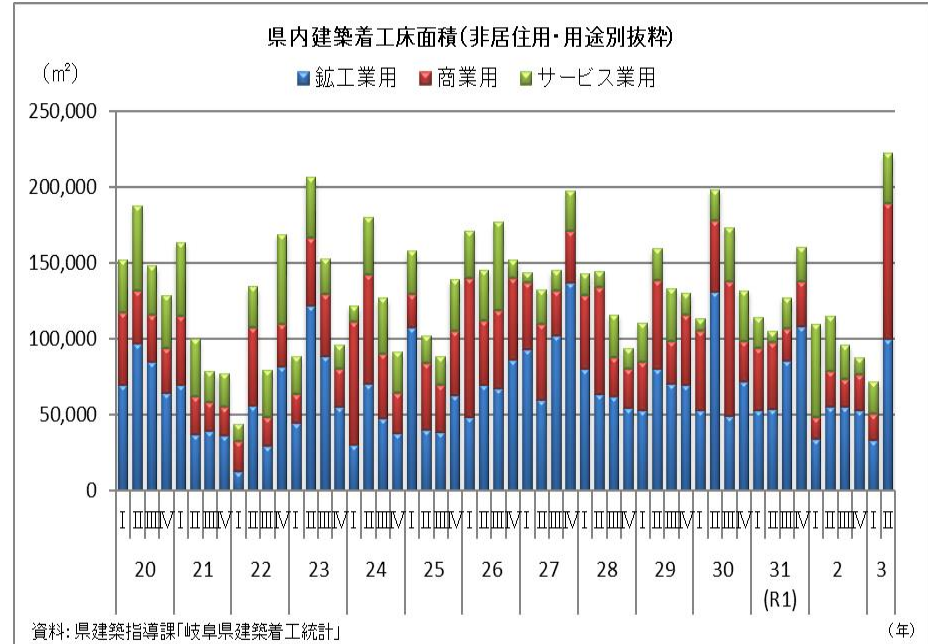
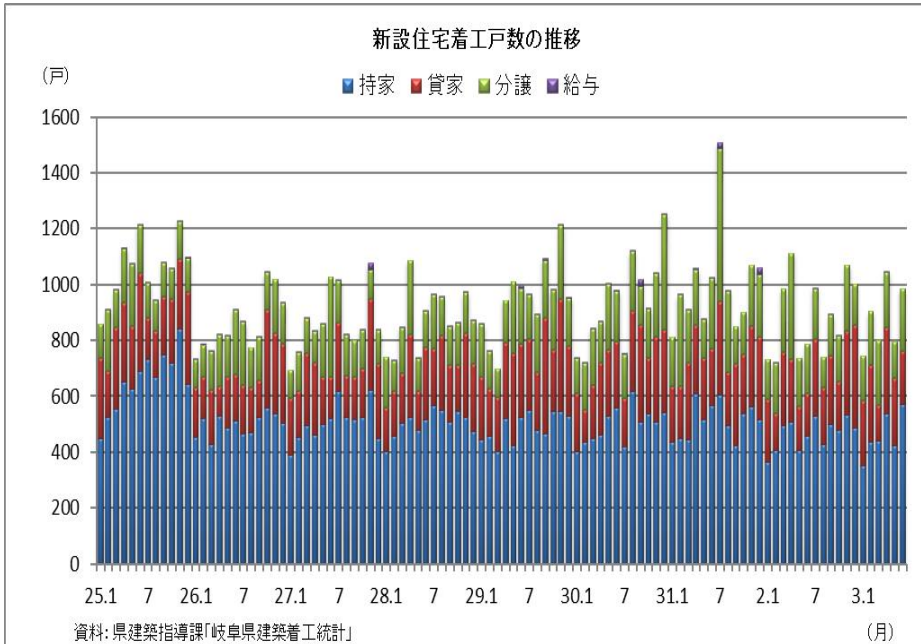
- ◆ 原材料の価格が高騰が続いているが、生産が滞ってしまうほどではない。(輸送用機械)
- ◆ 原材料の調達コストを抑えるため、大手自動車メーカーはグループ会社が必要とする原材料をまとめて調達しようとする動きがある。(輸送用機械)
- ◆ 鉄等の原材料は昨年10月から値上がり傾向が続いており、製品売価への反映ができるよう顧客との交渉を進めている。(生産用機械器具)
- ◆ 市場での鋼材の値上がりを受け、今月から来月にかけて徐々に製品の値上げを行う。(非鉄金属)
- ◆ 鋼材は過去に例のない価格上昇幅となるなど、昨年に比べ原材料が大幅に値上げされており、収益面を大きく圧迫している。(輸送用機械)

住宅・建築投資

○6月の住宅着工戸数は、前年同月比25.2%と増加した。

○貸家で前年同月比28.7%、分譲で同24.9%、持家で同24.2%増加した。

○4-6月期の非居住用の建築着工床面積は、サービス業用で前年同月比▲7.6%と減少したものの、商業用で同282.4%、鉱工業用で同80.8%と増加し、全体として同93.9%と増加した。



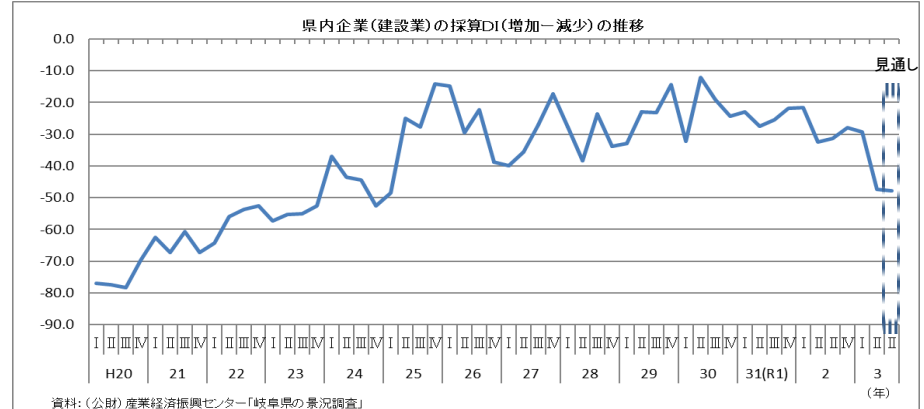
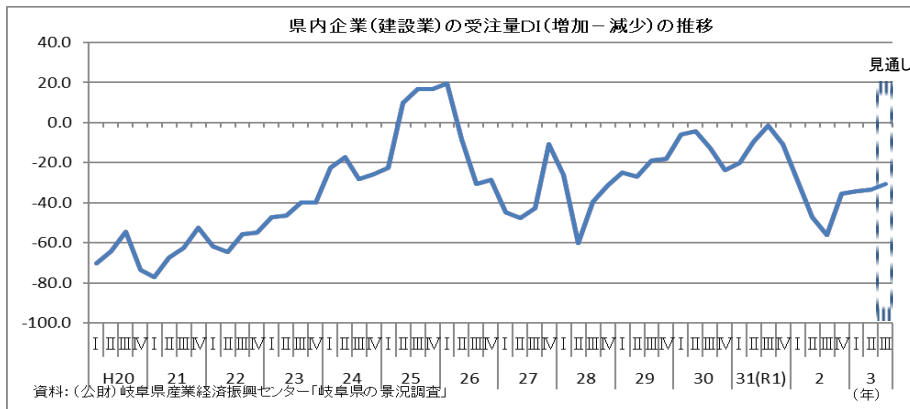
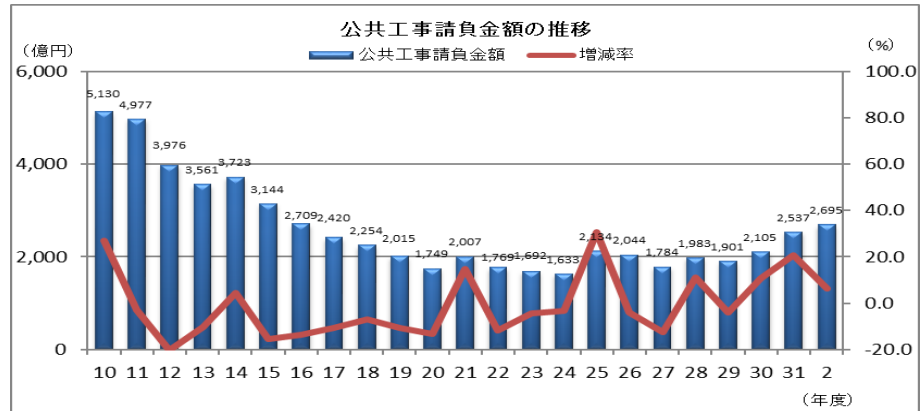
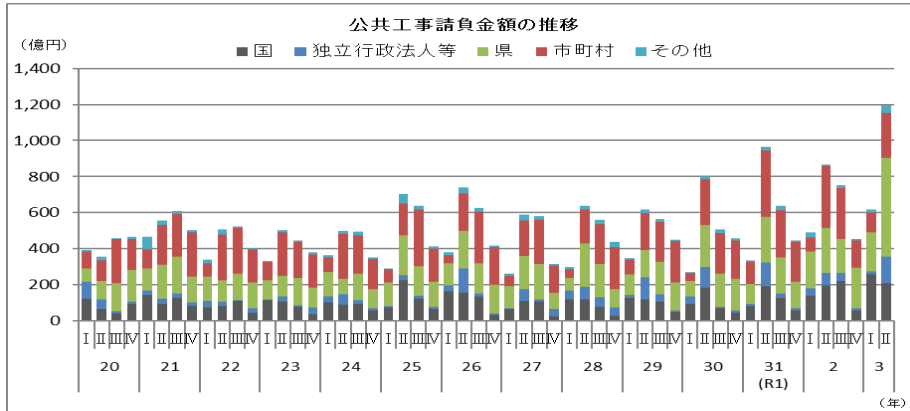
現場の動き

<ウッドショックの影響も含む>

- ◆ 契約数は対前年比で10%程増加している。契約数が少なかった昨年から、少しずつ回復しているのではないか。(工務店)
- ◆ 木材は不足している。7月は特に飛騨や東濃で降雨日が多く、木材の搬出に影響が生じたことも要因の一つとみている。(組合)
- ◆ 木材価格の高騰がいつまで続くのか、先が見通せない。(木材加工)
- ◆ 毎週、原材料価格の相場が変動しているため、資金繰りが厳しい。(組合)

公共工事

- 4-6月期の発注者別の公共工事請負金額は、市町村で前年同期比▲27.6%と減少したものの、国で同119.3%、独立行政法人等で同109.1%と増加するなど、全体で同37.5%増加した。
- 県内建設業の7-9月期の受注量DI見通しは前期比2.7ポイント上昇したものの、同採算DI見通しは同▲0.6ポイント低下した。



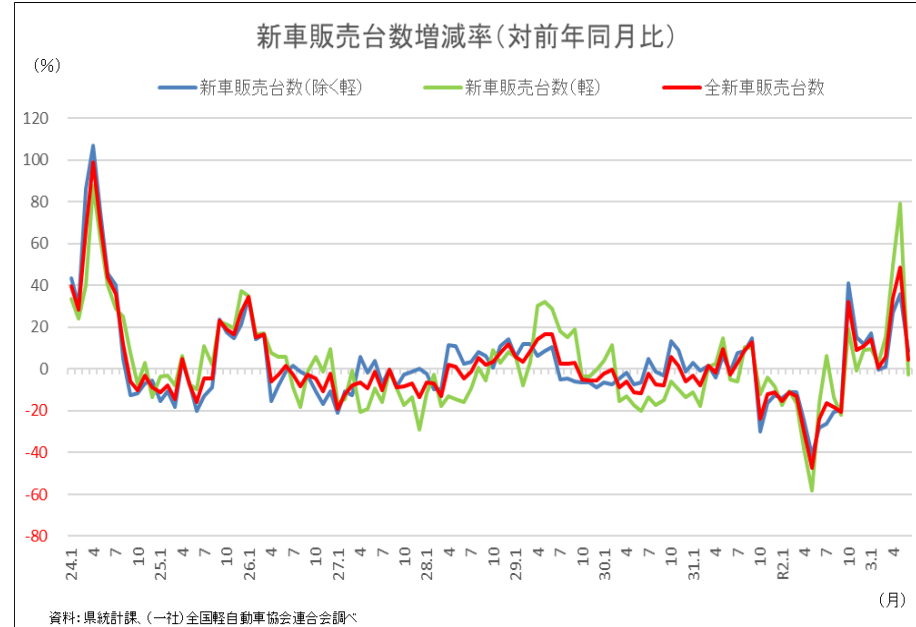
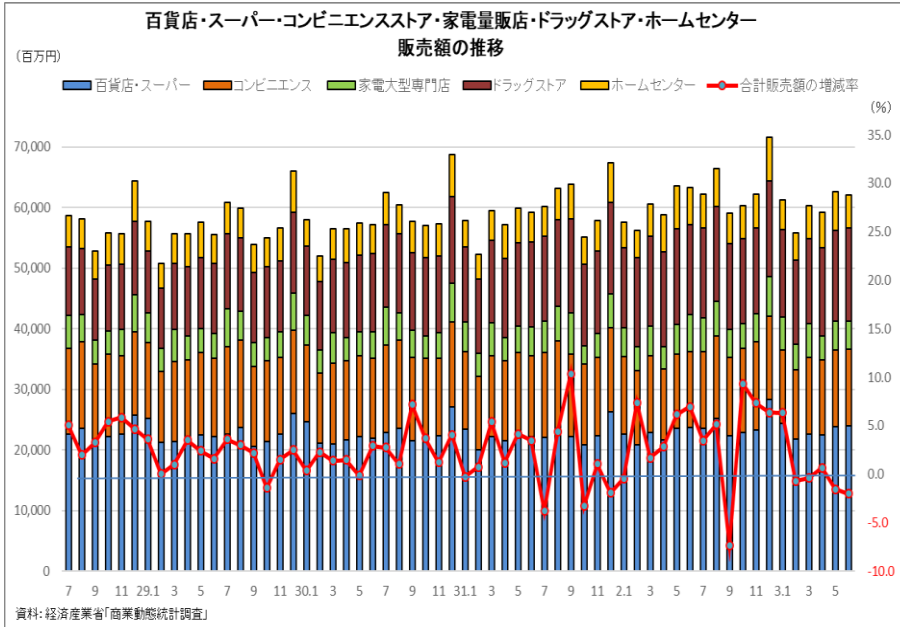
現場の動き

- ◆ 発注量が前年同期と比べると若干少ないように感じる。
- ◆ 鉄筋、鋼材、合材の価格高騰が著しい。
- ◆ 技術者、技能者共にフル稼働の状態であり、人材不足に変わりはない。(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○6月はドラッグストアで前年同月比3.0%、百貨店・スーパーで同1.5%、コンビニで同0.6%と増加したものの、家電大型専門店で同▲24.2%、ホームセンターで同▲10.8%と減少し、全体では同▲2.0%と減少した。

○6月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比8.7%と4ヶ月連続で前年同月を上回った。軽自動車は同▲2.8%と7ヶ月ぶりに前年同月を下回った。合算では同4.5%と、9ヶ月連続で前年同月を上回った。



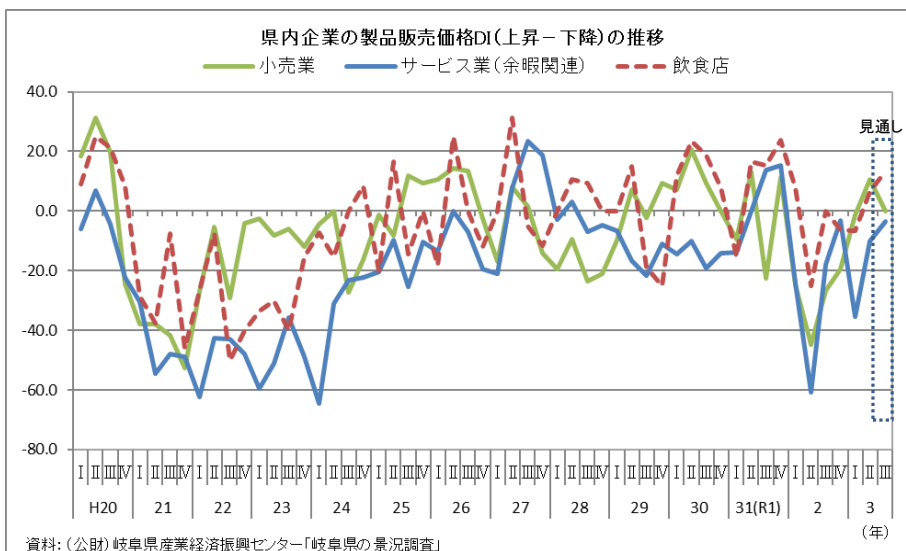
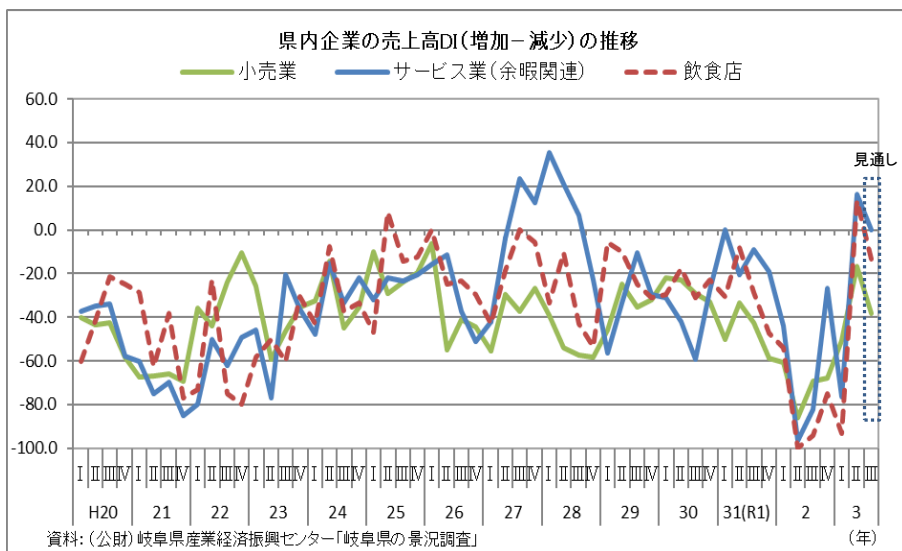
現場の動き

- ◆ 週末を中心に来店客数が回復傾向にある。(各務原市内商業施設)
- ◆ 7月に入って気温が上昇したため、飲料系商品の売上が大きく伸びた。人出が回復していることを受け、陳列商品を変更する予定。(岐阜市内スーパー)
- ◆ 去年は不調であった衣料品が今年は売れている一方で、昨年よく売れた清掃関連の商品は売れなくなった。大垣市内商業施設)
- ◆ 購買目的以外の来館者が減少している。(岐阜市内商業施設)

個人消費(流通・小売)ー2

○7-9月期の売上高DI見通しは、飲食店で前期比▲26.6ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲26.1ポイント、小売業で同▲21.4ポイント減少した。

○同じく販売価格DI見通しは、飲食店で前期比6.7ポイント、サービス業(余暇関連)で前期比6.6ポイント上昇し、小売業で同▲10.7ポイント減少した。



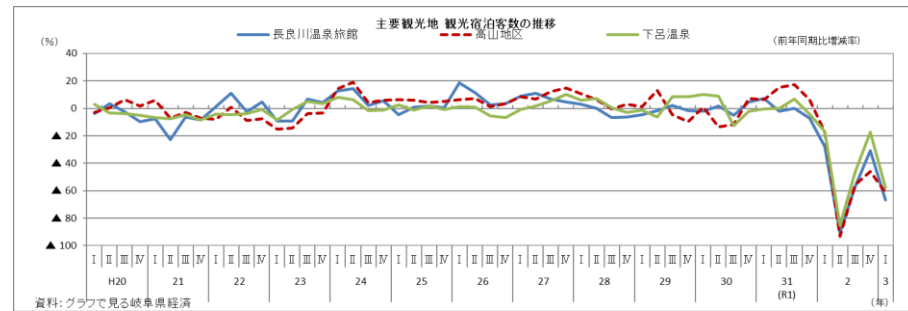
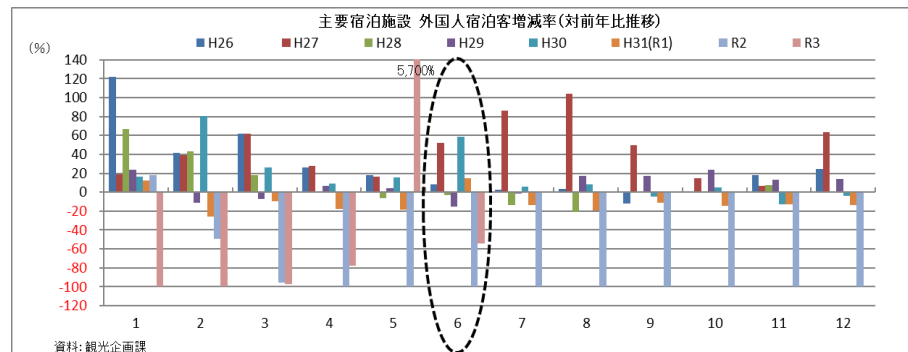
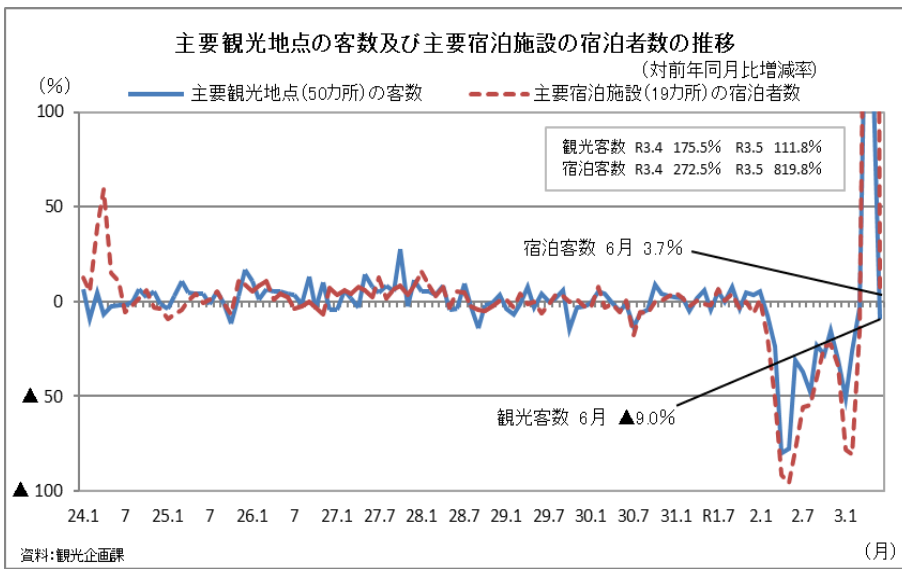
現場の動き

- ◆ 厳しい状況は続くが、先月より人出は増えている。和菓子店の売上は前年同月比で64%増加。昨年から開始したオンライン販売が好調。着物販売店の売上は前年同月比で30%増加。まん延防止等重点措置が解除されてからイベントが少しずつ再開しており、着物需要も戻りつつある。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 日用・雑貨店の売上は前年同月比で▲20%減少。時短要請の解除後に飲食店からの注文が多少入ったものの、法人向け商品の注文が激減している。(大垣市商店街)
- ◆ 家電販売店の売上は前年同月比で▲28%減少。半導体不足により一部商品の品薄が続いている。(高山市商店街)
- ◆ 酒類販売店の売上は前年同月比で10%増加。大きな宴会が少なく卸売部門の回復が弱いものの、家飲みが増えており店頭での小売りが好調。(多治見市商店街)

観光

○主要観光地における6月の観光客数は、前年同月比▲9.0%、コロナ前の前々年同月比では▲37.5%となっている。主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同月比3.7%と増加したが、前々年同月比では▲81.7%となっている。

○6月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比で▲54.5%と2ヶ月ぶりに減少に転じ、コロナ前の前々年同月比では▲99.9%となっている。

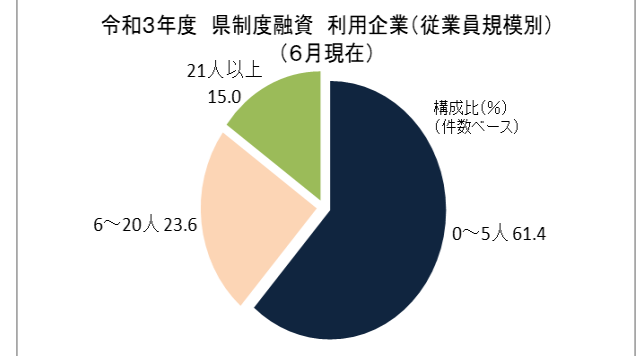
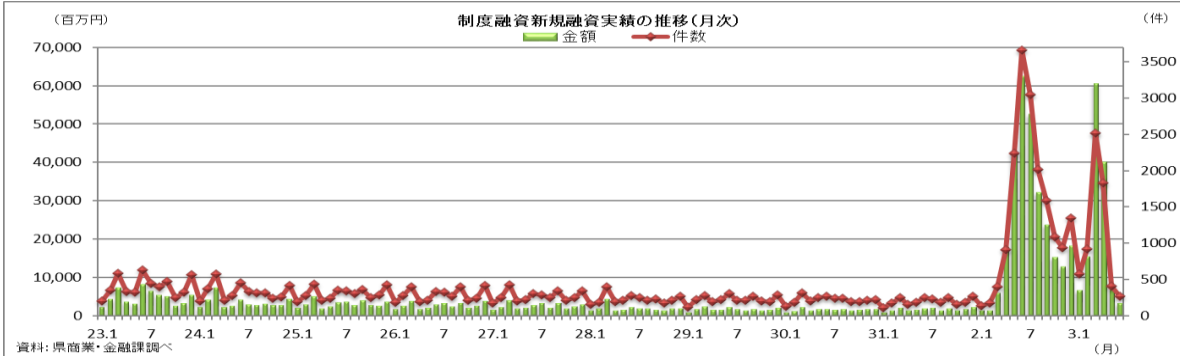
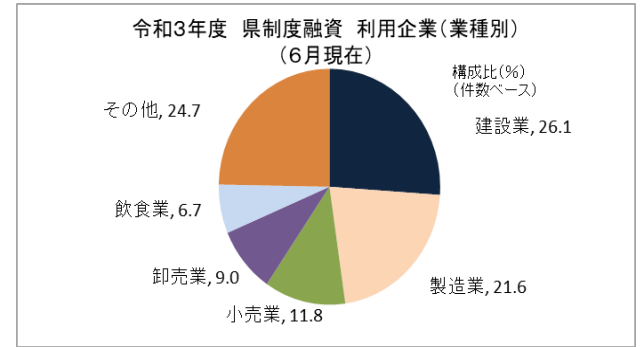
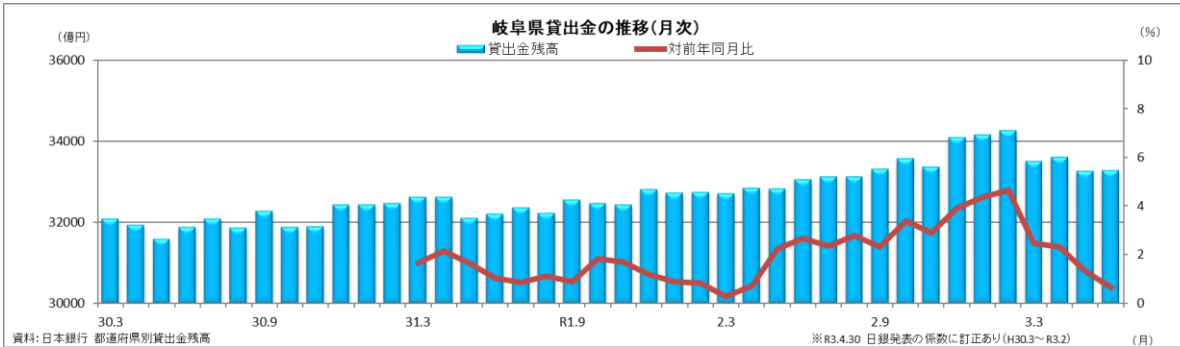


現場の動き

- ◆ 7月の4連休を中心に、週末の予約に動きが出始めた。(岐阜市、高山市、郡上市内の宿泊施設)
- ◆ 7月中旬から始まった“ほっと一息、ぎふの旅”県民割引キャンペーン(8月1日に第一弾の販売終了)に期待している。(岐阜市、多治見市内の宿泊施設)
- ◆ 7月中旬まで平日は休館、休日のみ営業している。(郡上市内の宿泊施設)
- ◆ 新卒や中途、国籍を問わず、正社員の雇用を中心に求人を行う予定である。(岐阜市、多治見市、下呂市の宿泊施設)
- ◆ 雇用調整助成金が続く限り、現況の雇用を維持していきたい。(高山市内の宿泊施設)
- ◆ ビジネス利用の客層が多く、観光目的の客層はまだ少ない。(高山市、多治見市内の宿泊施設)

資金繰り

- 6月の岐阜県貸出金残高は、3兆3,267億円で前年同月比0.6%とプラス基調が続く。
- 6月の制度融資実績は、金額が3,244百万円で前年同月比で▲94.8%、件数は265件で同▲92.8%と、いずれも2ヶ月連続で減少した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の61.4%を占めている。

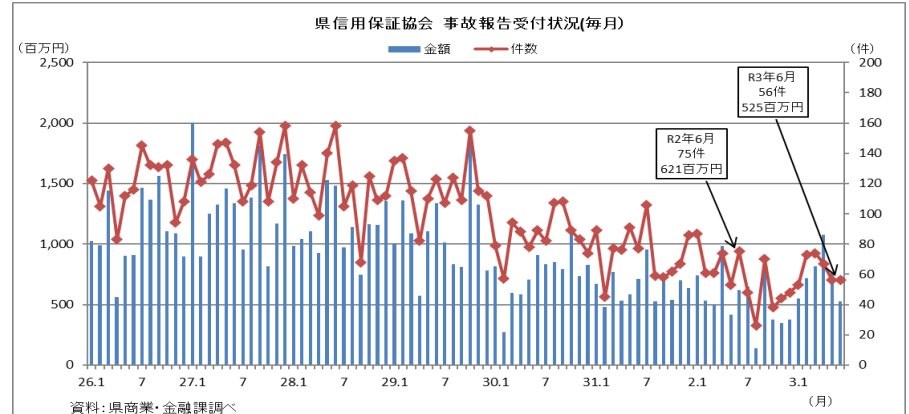
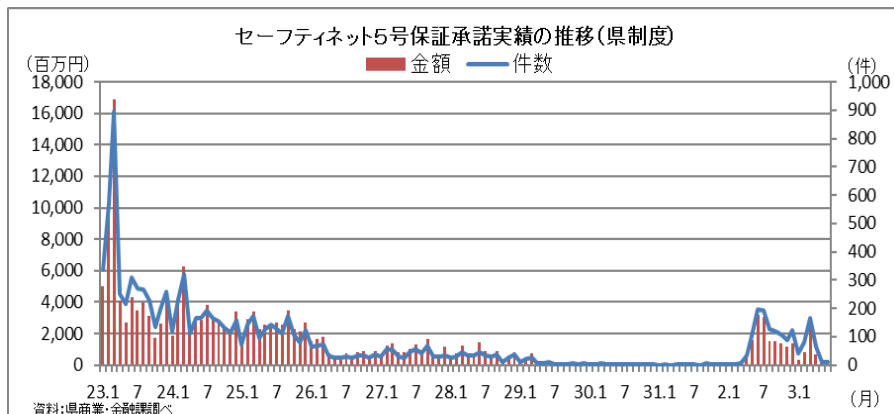
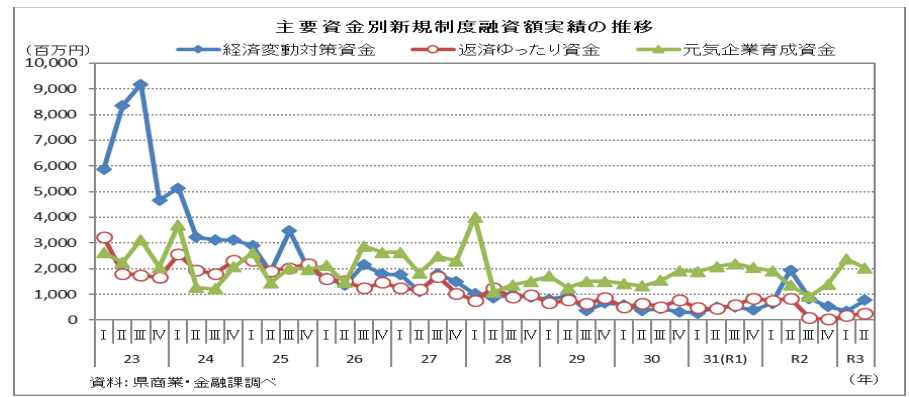
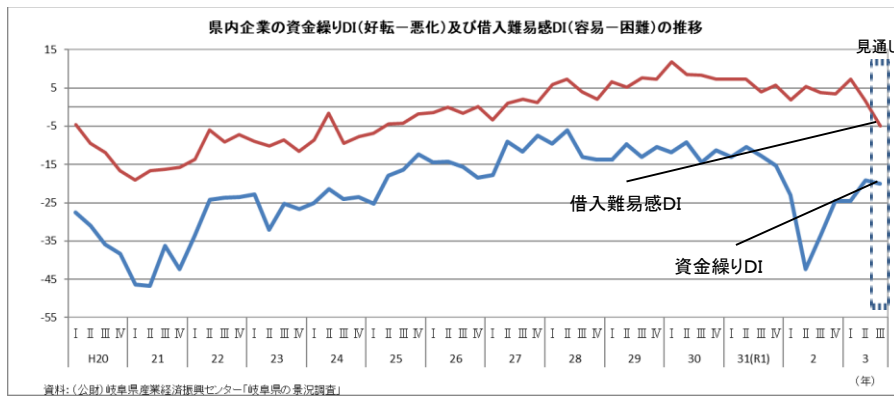


現場の動き

- ◆ コロナ前と比較して、融資の実行が少ない。実質無利子無担保融資で当面の運転資金を調達済みであることや事業自体が停滞していることが要因として考えられる。
- ◆ 信用保証協会の保証付き融資については、実行額よりも回収額が増え、保証付き融資の残高が減少している。
- ◆ 取引先からは、コロナにより収益が落ちている中で、原材料価格の高騰に加えて最低賃金の引上げもあり、経営が苦しい、といった声が聞かれた。(以上、金融)

資金繰り-2

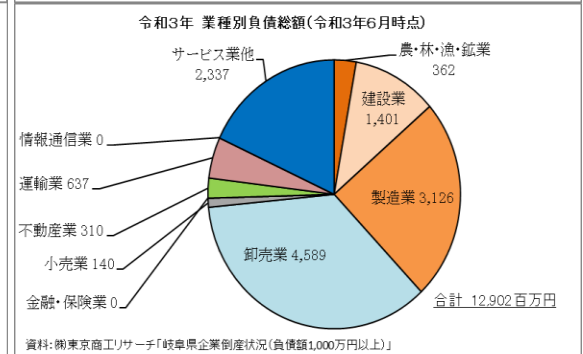
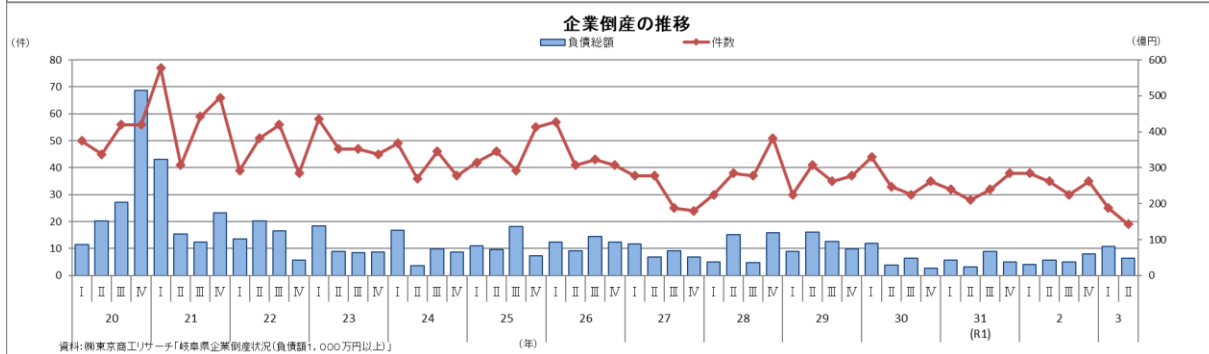
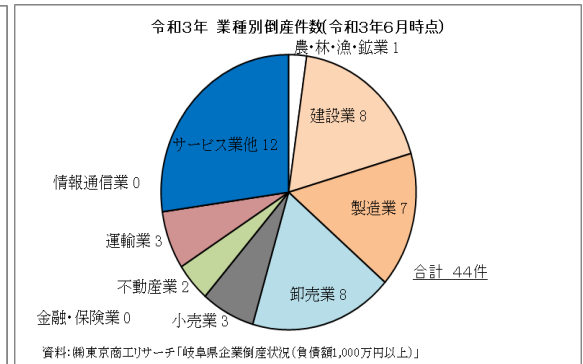
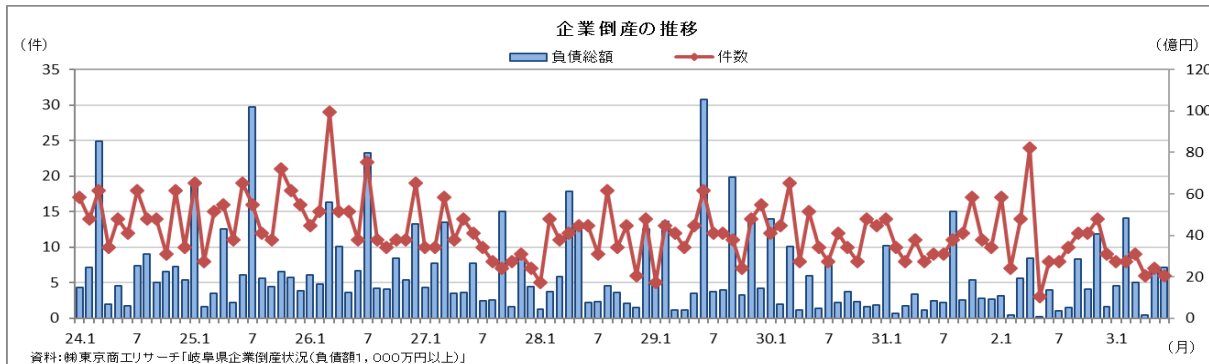
- 7-9月の資金繰りDI見通しは▲20.0で、前期比▲0.8ポイント低下した。同借入難易感DI見通しは▲4.9で、同▲6.6ポイント低下した。
- 4-6月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比▲60.2%と2期連続で減少、返済ゆったり資金で同▲68.3%と4期連続で減少、元気企業育成資金は同49.6%と2期連続で増加となった。
- 6月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が10件で前年同月比▲188件減少、金額は290百万円で同▲2,897百万円減少した。
- 6月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は56件で前年同月比▲25.3%減少、金額は525百万円で同▲15.6%減少した。



倒産

○6月単月の倒産件数は前月比1件減少の6件、負債総額は前月比210百万円増加の2,430百万円となった。

○1月から6月までの累計倒産件数は44件となり、前年同期の73件から29件減少。累計負債総額は12,902百万円となり、前年同期の7,443百万円から5,459百万円増加で推移した。



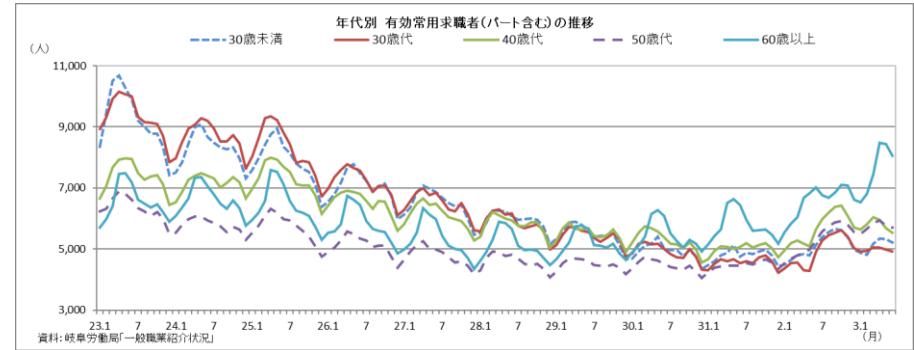
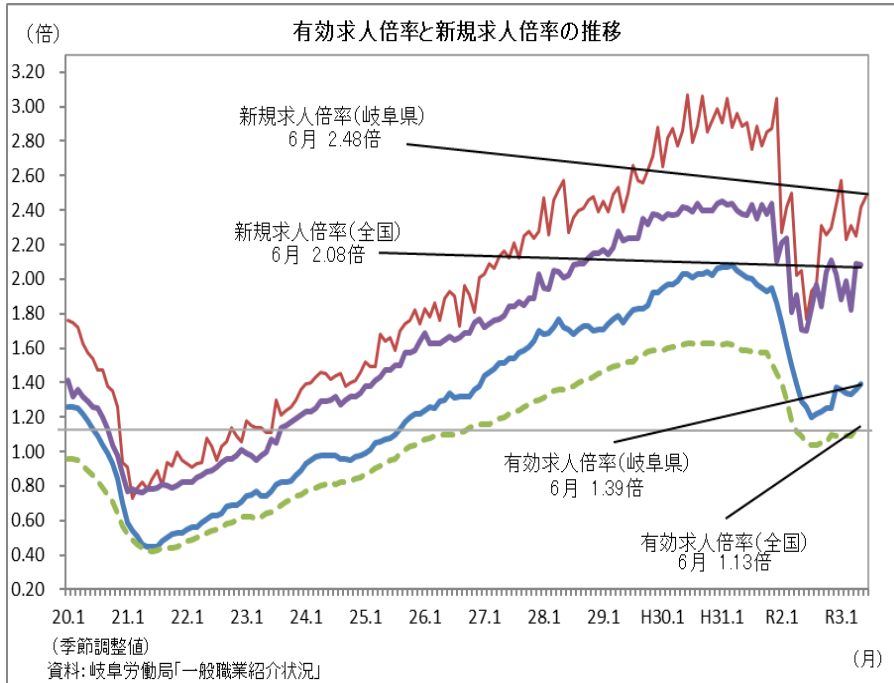
専門機関の分析(東京商工リサーチ、7月15日時点)

- ◆ 7月12日以降、東京都では約1ヶ月半の予定で4度目の緊急事態宣言に移行し、首都圏3県と大阪府が対象のまん延防止等重点措置は延長された。東海3県ではまん延防止等重点措置は解除されたものの、飲食店や酒類販売会社などを含めた関連業種の厳しい事業環境はしばらく続きそうだ。
- ◆ ダメージを受けた企業への金融支援策は継続するが、事業環境が回復しないままコロナ融資の返済がスタートする企業も出始め、過剰債務の問題も浮上している。息切れや事業継続をあきらめ破たんに至るケースも目立ち、全倒産に占めるコロナ関連の割合が高まっている。

雇用

- 6月の有効求人倍率は1.39倍と、前月比0.03ポイント上昇した。
- 6月の新規求人倍率は、2.48倍と同0.06ポイント上昇した。

- 6月の雇用保険受給者人員は、前月比6.4%と増加した。
- 有効常用求職者は、40代のみ前年同月比で増加した。



現場の動き

- ◆ 定年を65歳まで延長するため、当面は人材不足が解消される見通し。(輸送用機械)
- ◆ 近隣企業の早期退職者を対象とした人材紹介を活用して採用活動を行う。(生産用機械器具)
- ◆ 人手が不足しており、特に管理職の残業が増加している。(輸送用機械)
- ◆ システムを担当する人材を探しているが、うまくマッチングしていない。(輸送用機械)
- ◆ 人材に余剰感がある。自動車製品製造へ人員を再配置するなど、部署間で調整をしている。(輸送用機械)
- ◆ 雇用調整助成金を活用し、何とか雇用を維持している状況。(陶磁器)
- ◆ 当面の間、採用の予定はない。(岐阜市内の宿泊施設)

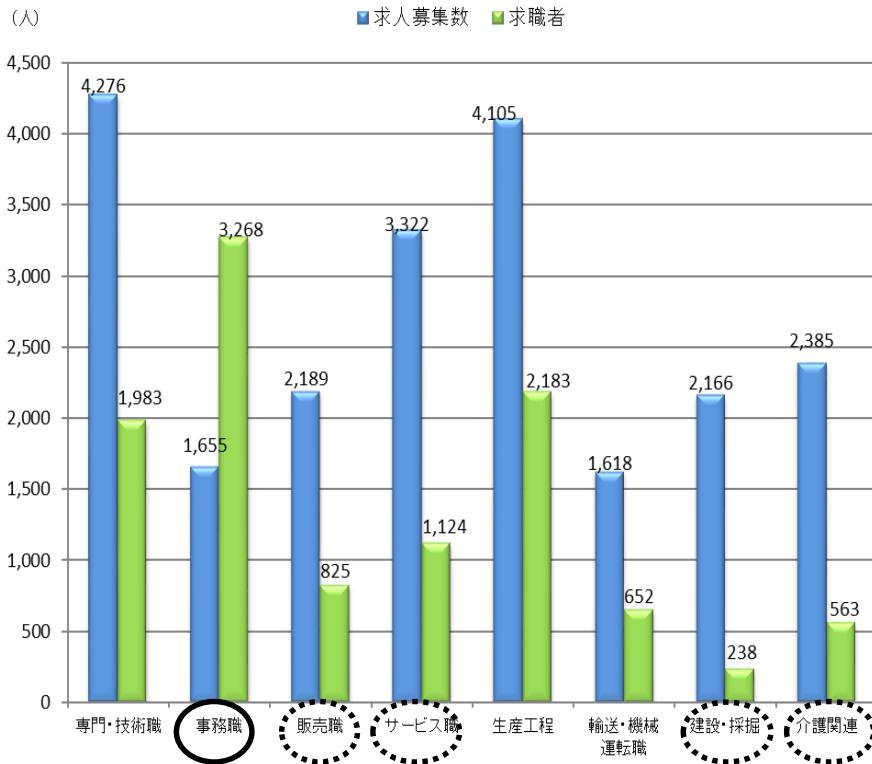
雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で9.10倍、介護関連で4.24倍、サービス職で2.96倍、販売職で2.65倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.51倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

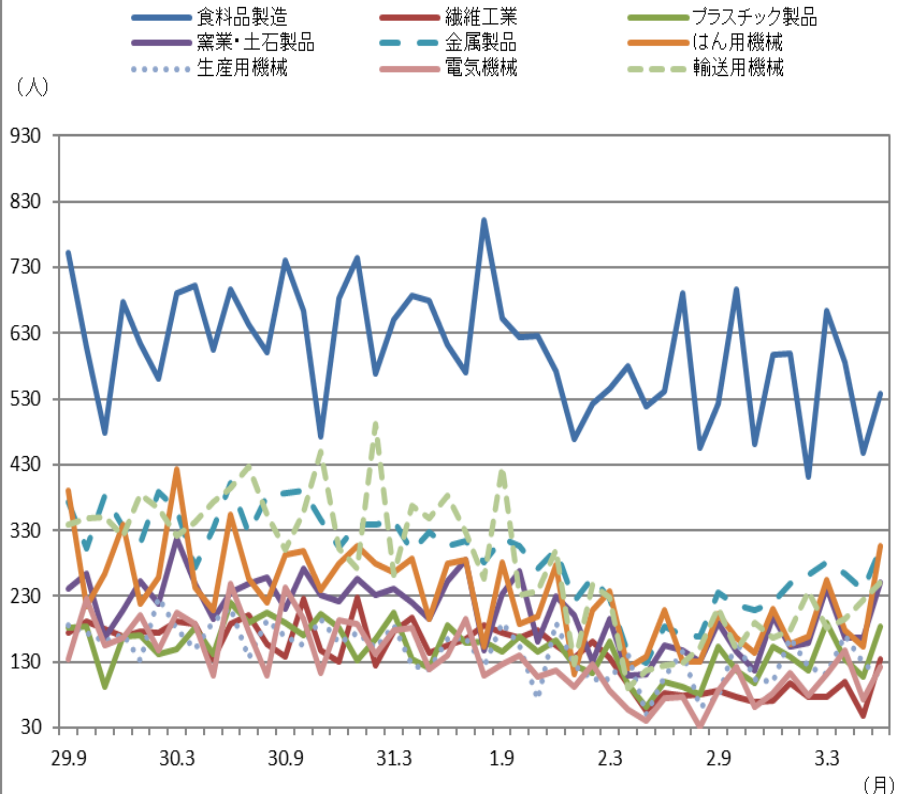
○6月の主要産業別の新規求人数は、輸送用機械で前年同月比101.6%、プラスチック製品で同83.0%、金属製品で同64.1%、繊維工業で同63.4%、電気機械で同62.7%、窯業・土石製品で同61.3%、はん用機械で同46.4%と増加し、生産用機械で横ばい、食料品製造で同▲0.7%と減少した。

6月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用的フルタイム)



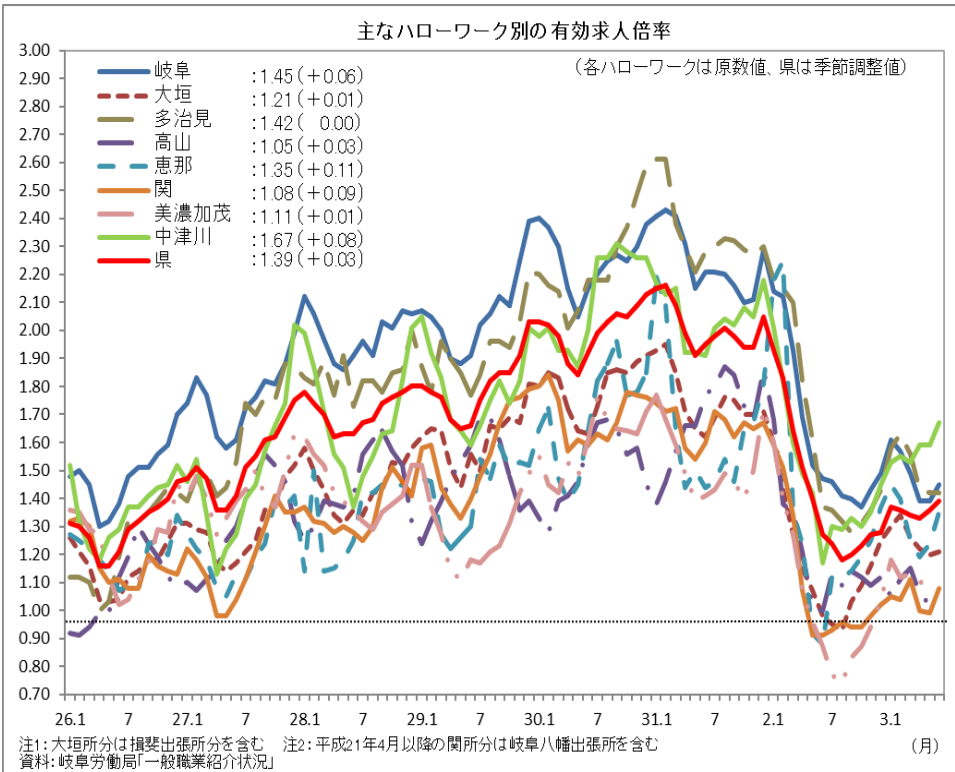
資料: 岐阜労働局「求人・求職バランスシート」

主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

雇用(地域別)



〇6月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、多治見を除き、多くのハローワークで上昇した。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<窓口の様子> ※前月比

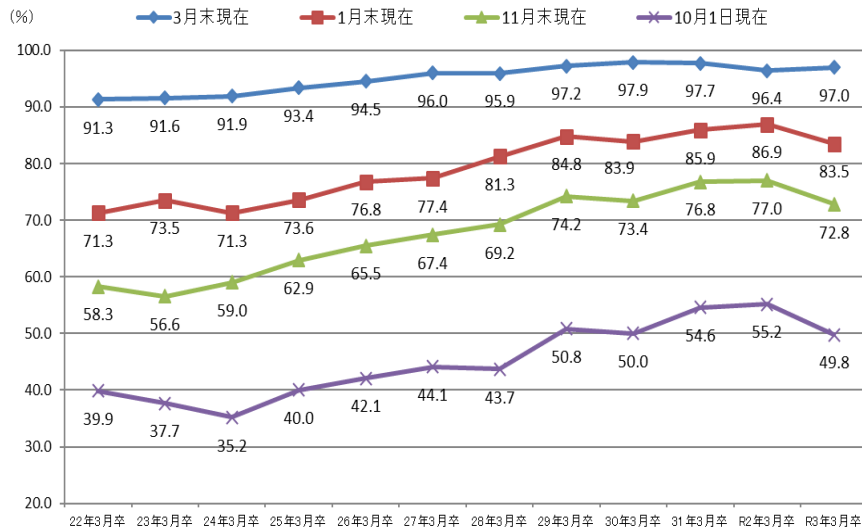
- ◆全てのハローワークで混雑傾向は見られなかった。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和3年3月末時点の大学・短大卒業者(令和3年3月卒業)の就職内定率は、97.0%であり、前年同時点と比べ0.6ポイントと上昇した。

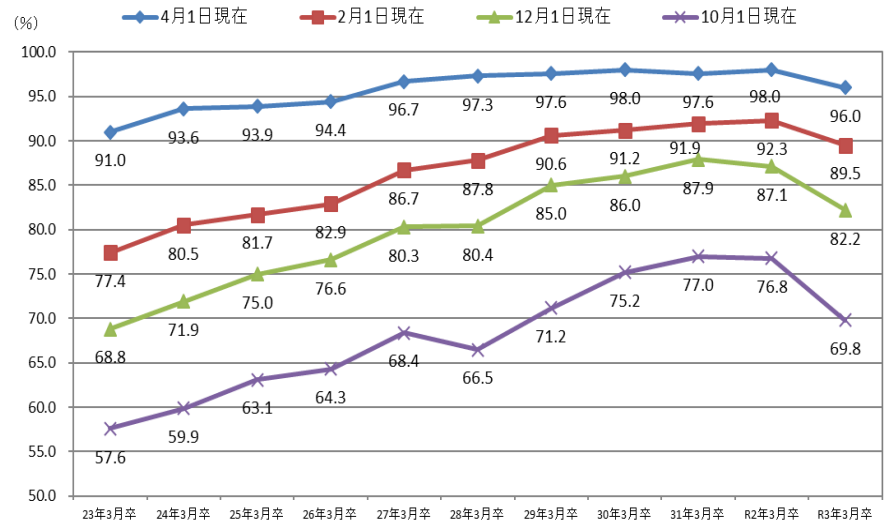
○全国の令和3年4月1日現在の大学卒業者(令和3年3月卒業)内定率は96.0%であり、前年同時点と比べ▲2.0ポイントと低下した。

新規卒業者(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料:岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料:厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(2022卒の動きなど)

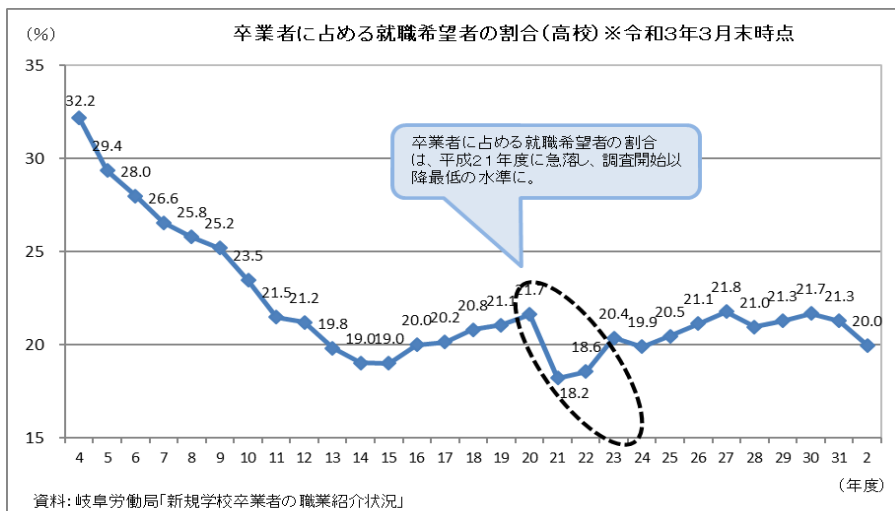
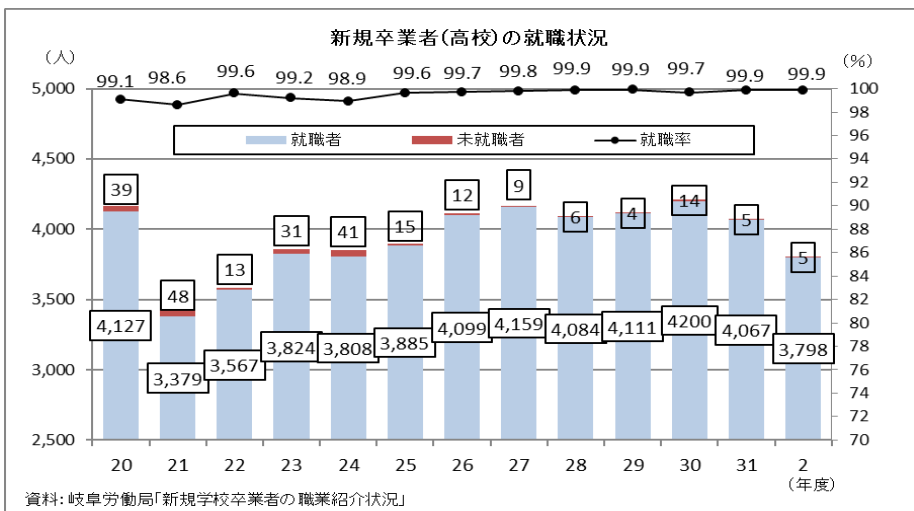
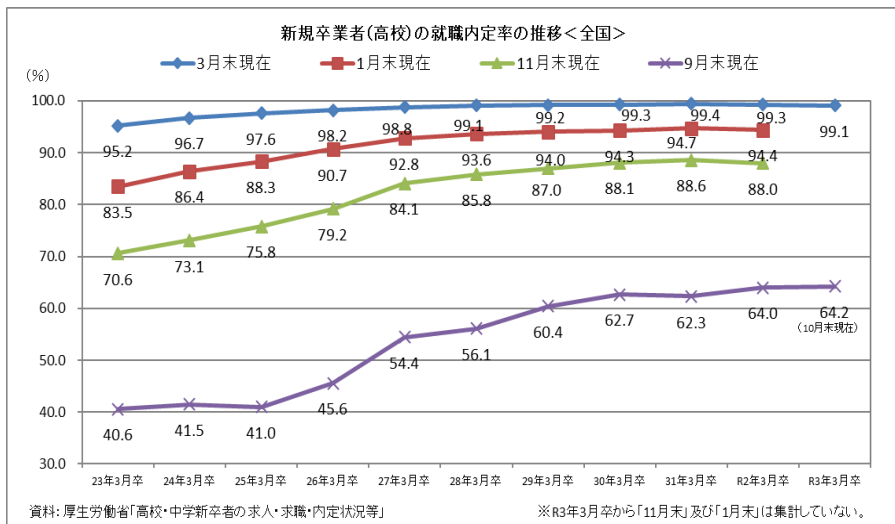
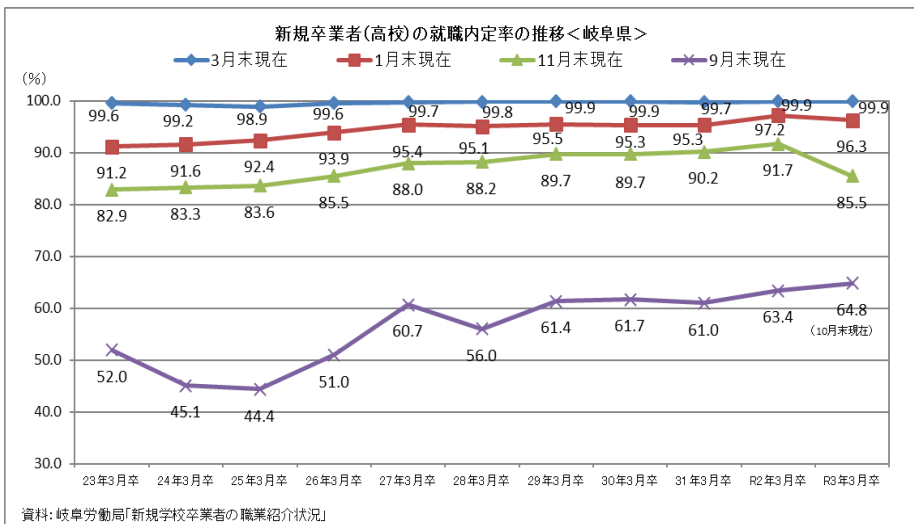
<大学へのヒアリング>

- ◆ 22卒生からの相談はかなり多く、前年同時期と比較しても増加している。23卒生からの相談も増加。
- ◆ 22卒生の内々定は66%。前年同時期が53%、前々年は71%であり、コロナ前の水準に戻りつつある。
- ◆ 企業からの求人は従来と変わりはない。(以上、岐阜県内大学)
- ◆ 対面、オンライン、電話、メールで学生からの相談を受け付けている。
- ◆ 大学に訪れる企業が増えてきた。
- ◆ 留学生を対象とした求人が減って困っている。(以上、愛知県内大学)

雇用(高校新卒者の就職)

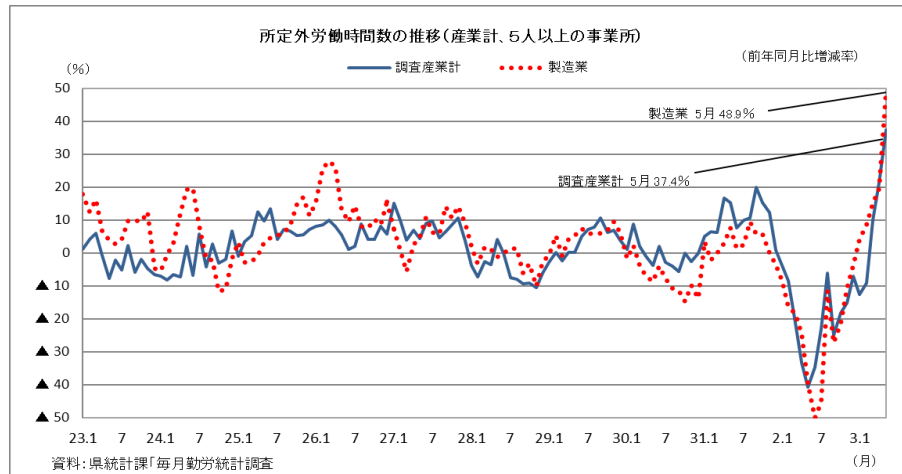
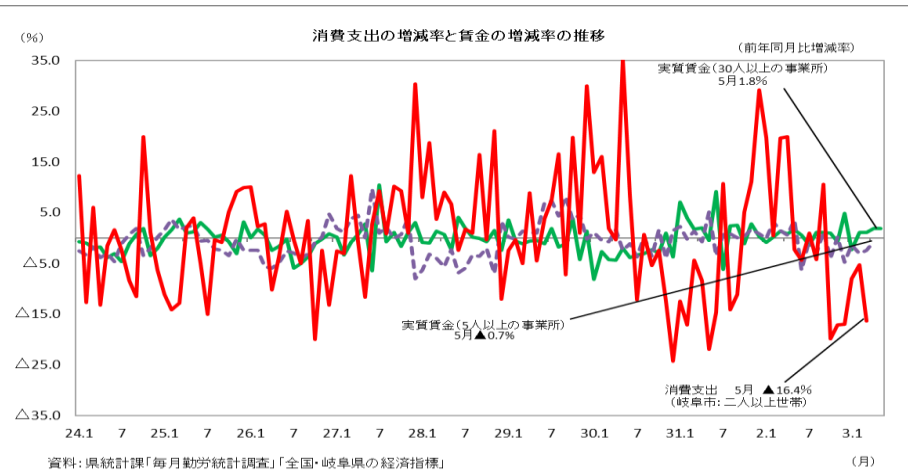
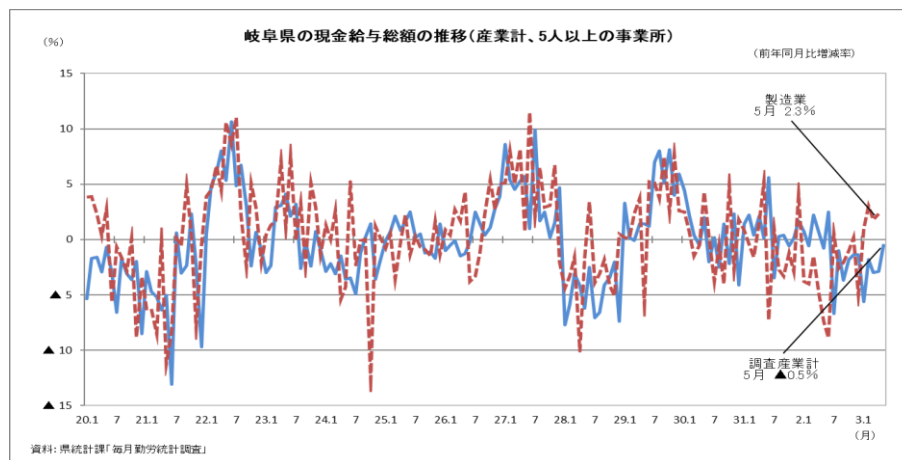
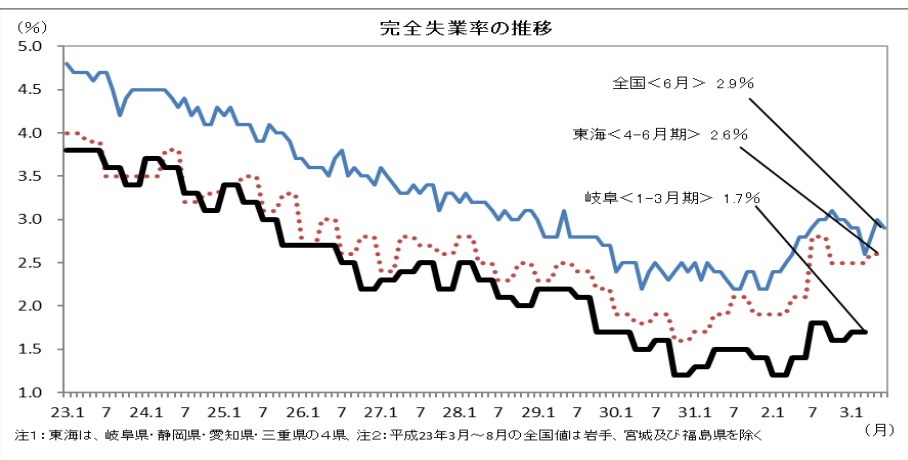
○岐阜県の令和3年3月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は99.9%であり、前年同時期と同水準となった。

○全国の令和3年3月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は99.1%であり、前年同時期と比べて▲0.2ポイント低下した。



雇 用(完全失業率等)

- 全国の6月の完全失業率は2.9%で前月比▲0.1ポイントと減少。岐阜県の1-3月期の平均は1.7%で前期比0.1ポイントと上昇。
- 5月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比▲0.5%と減少、製造業で同2.3%と増加。
- 5月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所は前年同月比1.8%、5人以上の事業所は同▲0.7%と減少。5月の消費支出については同▲16.4%と減少した。
- 5月の所定外労働時間数は前年同月比37.4%増加し、3ヶ月連続で増加に転じた。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、5月の鉱工業生産指数が前月比▲3.0%と低下。ヒアリングでは、中国や北米向けの輸出が好調を維持しているとの声があったものの、海運のコンテナ不足や半導体不足、原材料の高騰など、先行きを懸念する旨の声が聞かれた。
- 地場産業は、5月の鉱工業生産指数が、家具や窯業・土石、パルプ・紙で上昇したものの、食料品や木材・木製品、繊維工業で低下した。ヒアリングでは、お土産やお中元需要が落ち込んでいるとの声など、需要の落ち込みを指摘する声が聞かれた。
- 設備投資は、7－9月期の設備投資実施DI見通しは前期比▲0.5ポイント低下し、設備投資意欲DI見通しは同5.8ポイント上昇した。ヒアリングでは、製造ラインの新設やIT関連の追加投資など、前向きな設備投資の動きが見られたが、ウッドショックにより取引先の設備投資計画に影響が出ている、との金融機関の声もあった。
- 個人消費は、6月の販売額は、ドラッグストアや百貨店・スーパー、コンビニで増加し、家電大型専門店とホームセンターで減少した。ヒアリングでは、半導体不足により一部家電商品の品薄が続いているとの声が挙がるなど、半導体不足の影響が個人消費にも影響を与えている。
- 観光は、6月下旬までまん延防止等重点措置の対象区域となり、不要不急の外出や県をまたぐ移動の自粛、イベントの中止、宿泊客に対する酒類の提供停止が要請されたことなどにより、客数は観光地、宿泊施設ともにコロナ前の前々年同月を下回った。宿泊施設からのヒアリングでは、7月の4連休を中心に週末の予約に動きが出始めたが、観光目的の宿泊はまだまだ少ない、などの声があった。
- 企業の資金繰りは、6月の制度融資実績は、件数、金額ともに2ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からのヒアリングでは、取引先は実質無利子無担保融資により当面の運転資金を調達済みであることや事業自体が停滞しているため、コロナ前と比較して融資の実行が少なくなったとの声が聞かれた。
- 雇用面は、6月の有効求人倍率が1.39倍と2ヶ月連続で上昇した。ヒアリングでは、定年の延長や近隣企業の早期退職者を対象とした採用活動など、人材不足を解消する取り組みが聞かれた。